

## アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	Sustainable Industry Development 海外教員招へい
<b>代表者名</b>	久野秀二、芦宛雪（経済学研究科）
<b>事業概要 (600字程度)</b>	<p>東アジアコース集中講義科目「Sustainable Industry Development」では、Mr. Edward Clarence-Smith を招聘した。Mr. Clarence-Smith は政府間機関や民間部門に対し、緑の産業と循環経済の発展を促進するためのシニアアドバイザーであり、かつては国連工業開発機関（UNIDO）のバンコクおよび北京での代表およびディレクターであった。</p> <p>このコースは、学際的アプローチから、経済全体の環境パフォーマンスを改善し、循環経済への移行と緑の持続可能な産業化を促進するための戦略と政府の政策措置を検討しながら、受講生たちが現在国際社会において取られている措置と、循環経済への移行および緑の産業を実現するための可能な措置をより意識することを目指している。11月中旬に計15コマの講義が対面で行われた。6名の東アジアコース学生、5名の海外大学からの特別交換留学生、1名の農学研究科学生を含む12人が受講した。</p>
<b>成果の概要 (800字程度)</b>	<p>今年度の「持続可能な産業開発」講義は、様々な国や学問分野から集まった留学生たちとともに、循環経済に関する学びの場として、エレン・マッカーサー財団の枠組みを活用し、消費者の決定から経済行為者が取りうる戦略、さらには政府が導入可能な政策まで、循環経済への移行を具体的かつ実践的に促進する方法について講義した。リラックスした雰囲気の中で開かれ、学生たちは自由に意見を交換することができたため、学びの経験が一層豊かなものになった。</p> <p>この講義は環境持続可能性の現状を理解することから始まり、世界的な観点と地域的な観点から資源消費の問題に焦点を当て、循環経済への移行がなぜ必要かを学生たちに認識させた。講義は、産業会社だけでなく、農業や流通セクター、消費者を含む経済の他のセクターが循環経済への移行をどのように支援できるかという戦略も探求した。このプロセスを通じて、学生たちは環境財およびサービス部門（緑の産業）が循環経済への移行をどのように支援するかの理解を深め、政府が企業をより持続可能にするための政策ツールを学ぶことができた。</p> <p>さらに、グループワークを通じ、学生たちに'narrowing', 'slowing', and 'closing'という三つの循環経済戦略を具体的な製品に適用させながら、それぞれのビジネスモデルが直面する課題と、政府がこれを支援するために採用できる政策を考察させた。これにより、学生たちは循環経済に向けた実践的なステップとその影響を具体的に理解することができたと思われる。</p>